

道南太平洋海域スケトウダラニュース

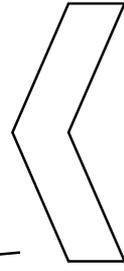
平成16年度 第4号

2004年12月6日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605



道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸と釧路水試調査船北辰丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。金星丸が渡島・胆振、北辰丸が日高海域を調査しました。

- ・調査期間：平成16年11月29日～12月1日
- ・調査海域：渡島～日高支庁の水深200～500m太平洋海域

- ・魚探反応の強い海域は、調査線E上の水深300m以深海域（北緯42度05分線、海区番号188、189）および苫小牧から白老沖（海区番号179、182、184）
- ・分布水深は渡島海域では300m以深の海域
恵山沖（調査線B上：北緯41度50分）のみ100m前後の浅い海域まで分布
- ・胆振・日高海域は概ね250～400m（ところにより200m以浅まで）分布
- ・反応の強さは10月より増加し、平成12年並の高い水準

1. 魚群は渡島から胆振海域に広く分布していました。魚探反応は北緯42度05分線上（E線）の水深300m以深海域で最も強く（海区番号188、189）、白老から苫小牧沖（海区179、182、184）にも強い反応が観察されました（図1）。
2. スケトウダラと考えられる魚群は、渡島海域では依然水深300m以深にとどまっていた。ただし、恵山沖（B線：北緯41度50分線上）では水深100m前後の浅い海域まで分布していました（図2：B、E線）。
3. 胆振から日高の海域では、水深250～400mの範囲に分布しており、ところにより200mより浅い海域まで広がっていました（図2：H、I、L、O、S線）。
4. 10月の調査と比較して各調査線の反応の強さは増加しており、同じ時期としては平成12年並の高い水準となっています。ただし、日高支庁海域の分布量は低い水準です。
5. 今後、渡島・胆振では魚群が浅い海域に移っていくのに伴い、漁獲量が増加すると予測されます。また、恵山から木直の沿岸部に魚群が入っているので、今後湾内へも魚群が移動して漁獲がはじまると予想されます。
6. 次回調査は1月11～26日の予定です。
7. スケトウダラニュースは、インターネットで函館水試のホームページ上からご覧になれます。（スケトウダラニュース4号は12月7日より利用できます）

ホームページアドレス <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/>

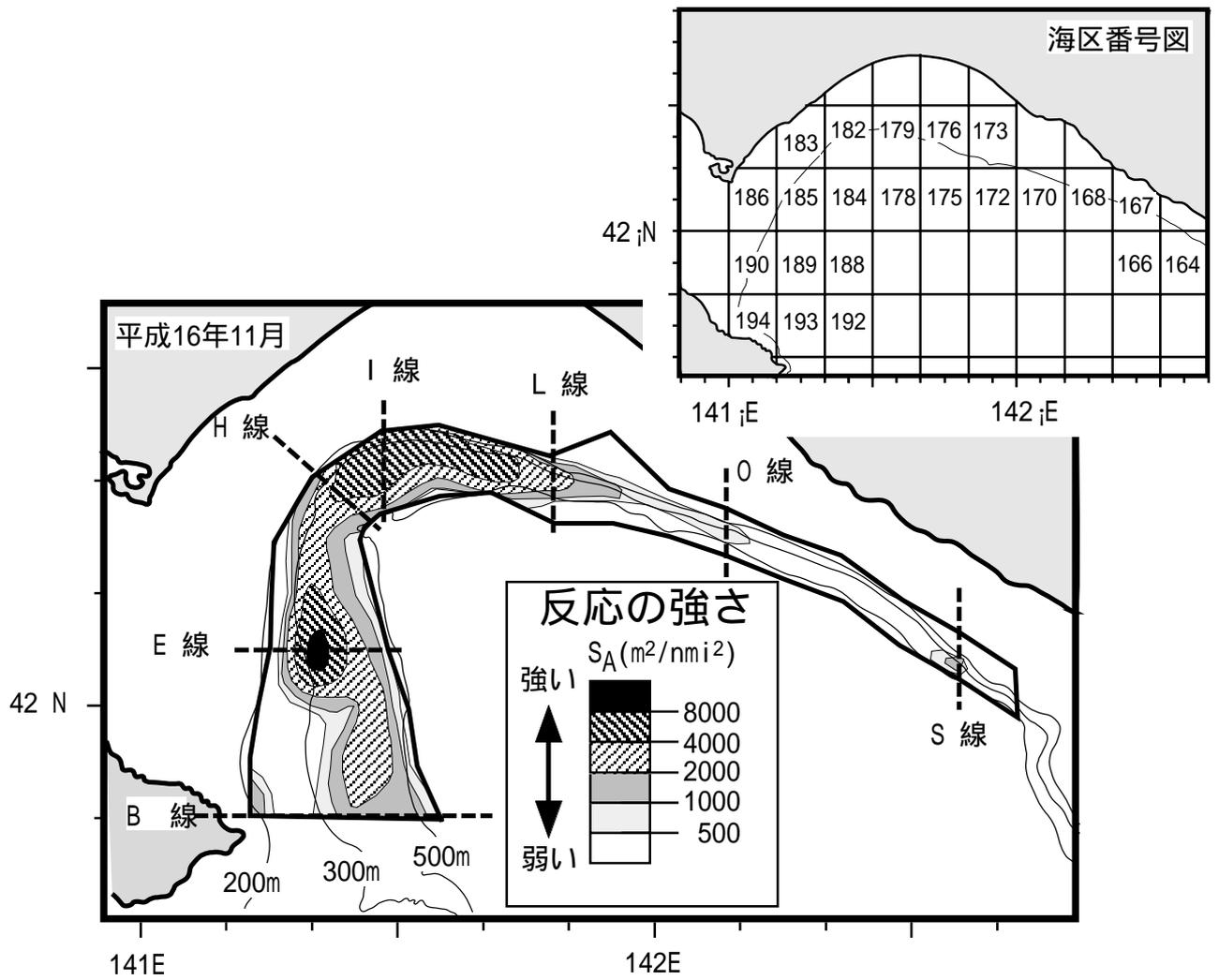


図1．調査海域における魚群の分布
黒ワケの中が調査範囲

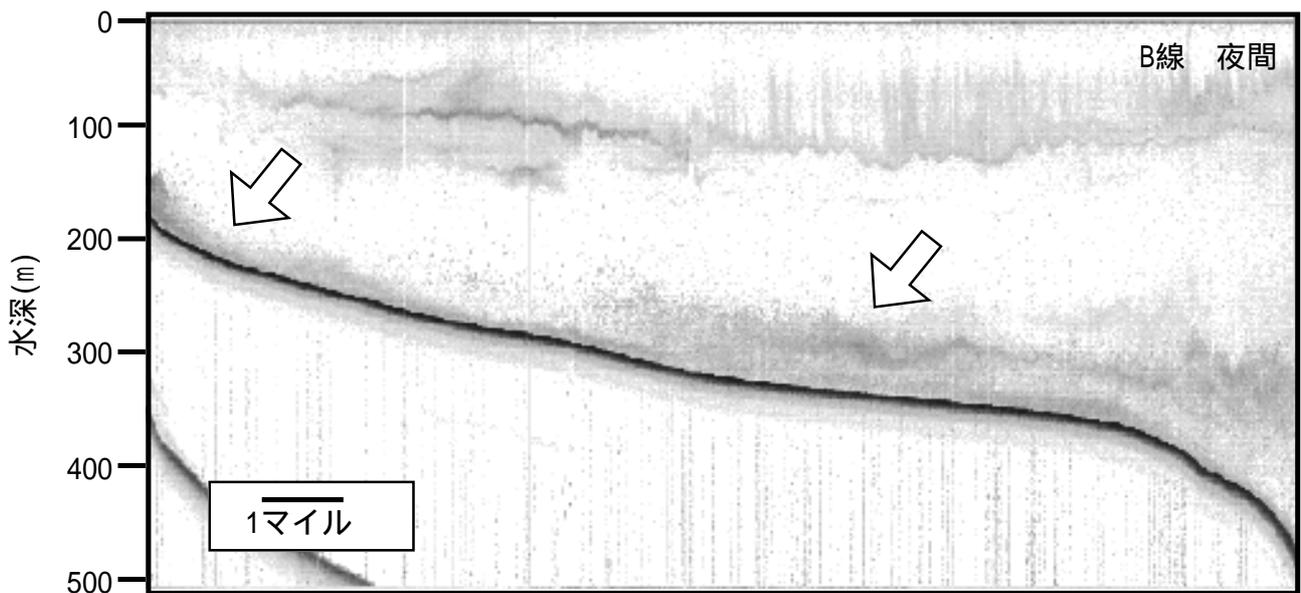


図2．魚探画像
矢印：スケトウダラと考えられる魚群

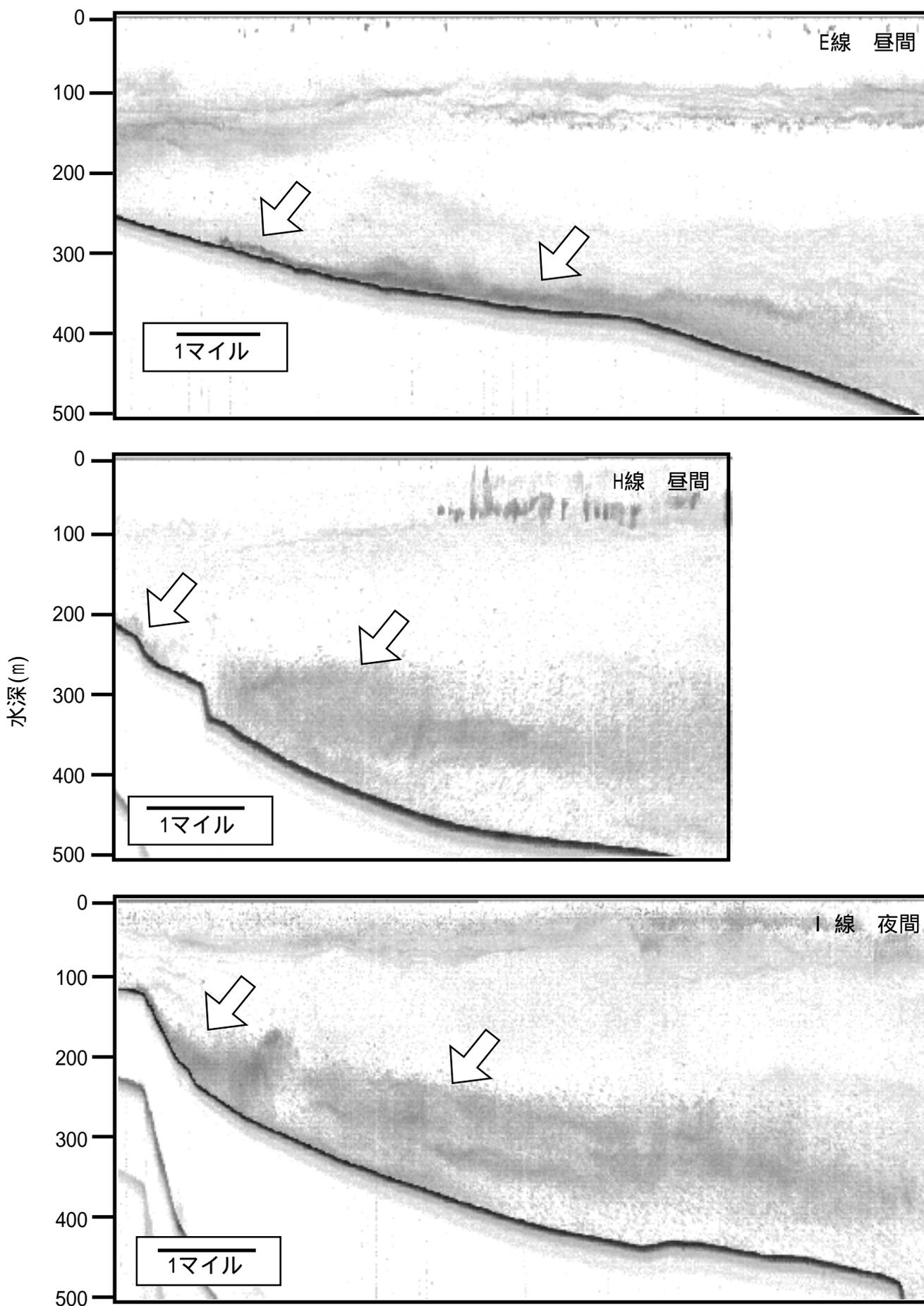


図2 . 魚探画像 つづき
 矢印：スケトウダラと考えられる魚群

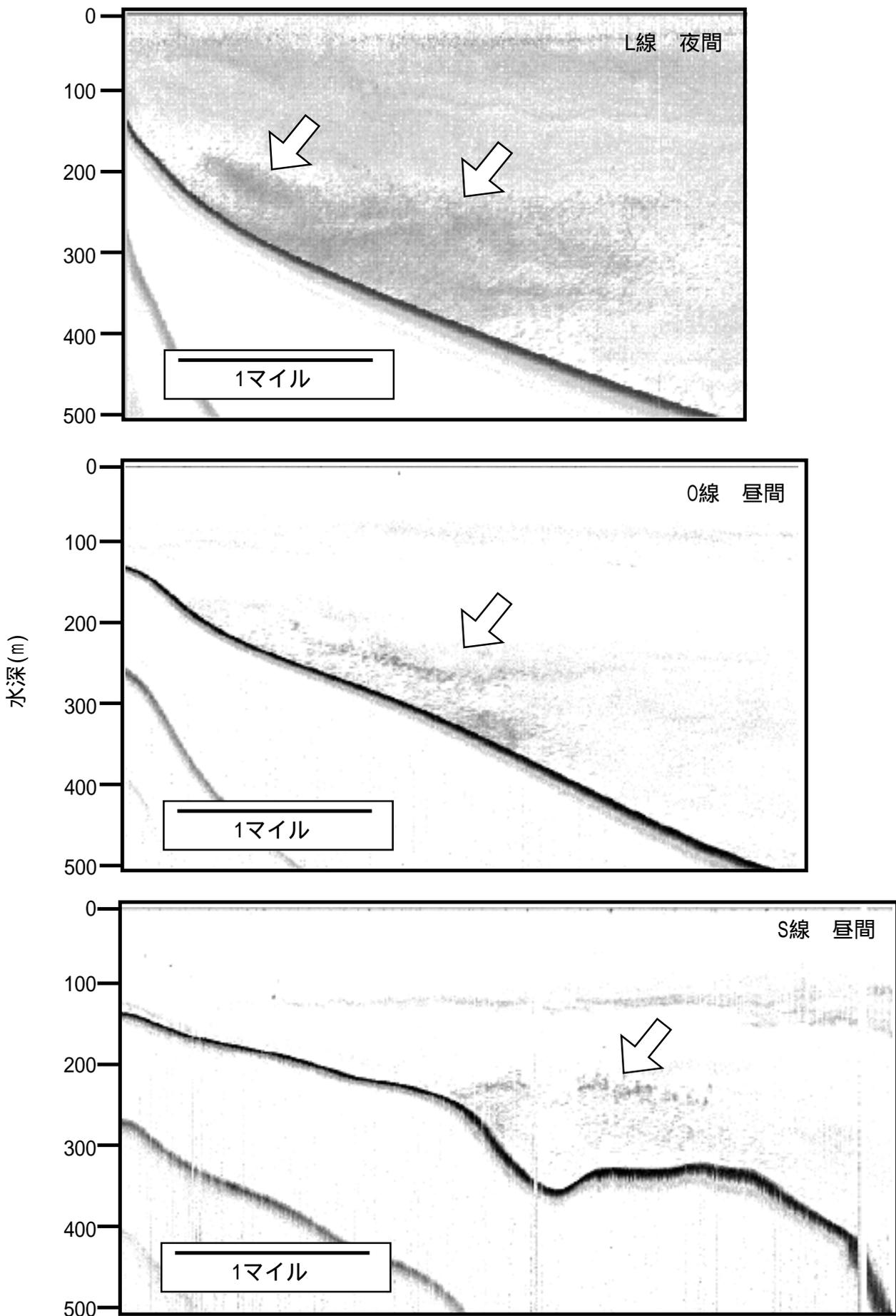


図2 . 魚探画像 つづき
 矢印：スケトウダラと考えられる魚群